



## CT (Computed tomography : コンピューター断層撮影) 検査

CT検査は、X線を使って身体の断面を撮影する検査です。初期のCT装置は、1回の撮影で1枚の画像しか得られず、撮影時間が長いことが難点でしたが、現在では広い範囲を撮影できるマルチスライスCTの登場で、1回転でより多くの画像が撮影可能となりました。さらに複数のCT画像を重ねて再構成することにより、いろいろな断面画像や3D画像も得られるようになりました。

### 当院のCT装置の特徴 (80列マルチスライスの特徴)



- ・多重検出器により短時間で撮影が出来るため、息止め時間の短縮。
- ・1画像の断層厚が薄いので(0.5mm)、鮮明な画像を得られる。
- ・最適なX線エネルギー出力により低被曝を実現。
- ・780mmの大開口径装置で、検査中の圧迫感が少ない。

当院のマルチスライス80列CT装置

### CTの画像

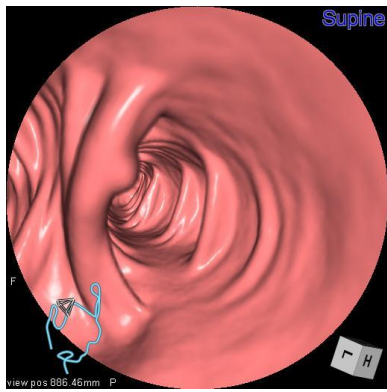


横断面

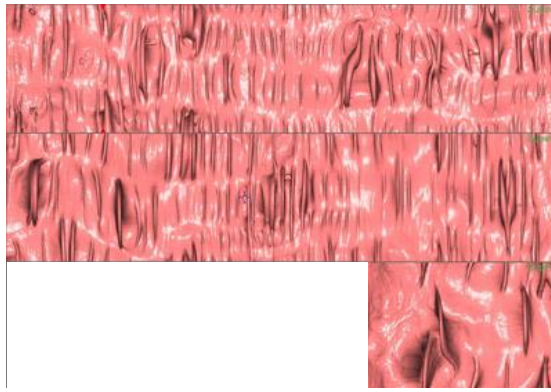
前額面

矢状面

CT装置で撮影される画像は体を輪切りにした横断面ですが、現在では、横断面を重ね合わせて、前額面や矢状面等様々な断面で観察が可能となっています。さらにこの画像を応用したCT大腸検査では、3D画像を作成、大腸の仮想内視鏡画像 (VE) や大腸表面を平面に展開 (VPG) して観察することも可能となりました。



仮想内視鏡画像 (VE)



大腸表面画像 (VPG)

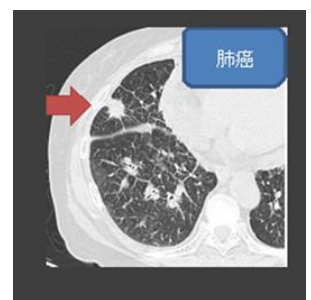
## 当院のCT検査

当院では、病気の早期発見のため、以下のCT検査を行っています。

### ・胸部CT検査

CTを使用した検査で発見される肺癌は、大きさが15~20mm前後で、その70~90%が病期I(5年生存率70%)の早期癌です。肺がんを早期に発見するにはCT検査が有効です。

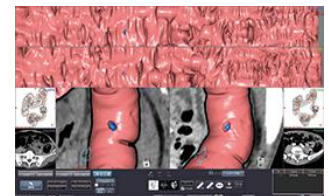
喫煙している方、50歳以上の方、周りに喫煙者が多い方など、肺がんが心配な方や血痰や頑固な咳などの自覚症状がある方にCT検査をお勧めします。



胸部CT検査画像

### ・大腸CT検査

下剤を服用してきれいにした大腸に、炭酸ガスを注入して大腸を膨らませます。その状態でCT撮影を行い、膨らんだ大腸をいろいろな画像に再構成して診断を行います。便秘と下痢・吐き気や嘔吐を繰り返したり、痛みを伴う便秘、便に出血があったり、便が細くなったりという症状のある方、また家族に大腸がんになった方がいたり、便潜血検査で陽性だった方は、外来で医師にご相談下さい。

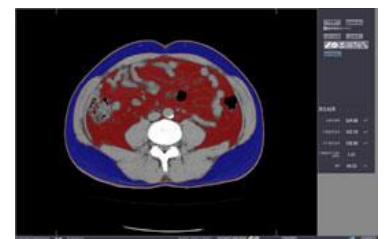


大腸CT検査画像

### ・内臓脂肪CT検査

臍の位置でCT撮影し、CT画像を解析して内臓脂肪の面積を測ります。

\*肥満は、生活習慣病を引き起こし、結果、心筋梗塞や脳卒中の根本原因となります。



内臓脂肪検査画像

健康診断のご予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp